

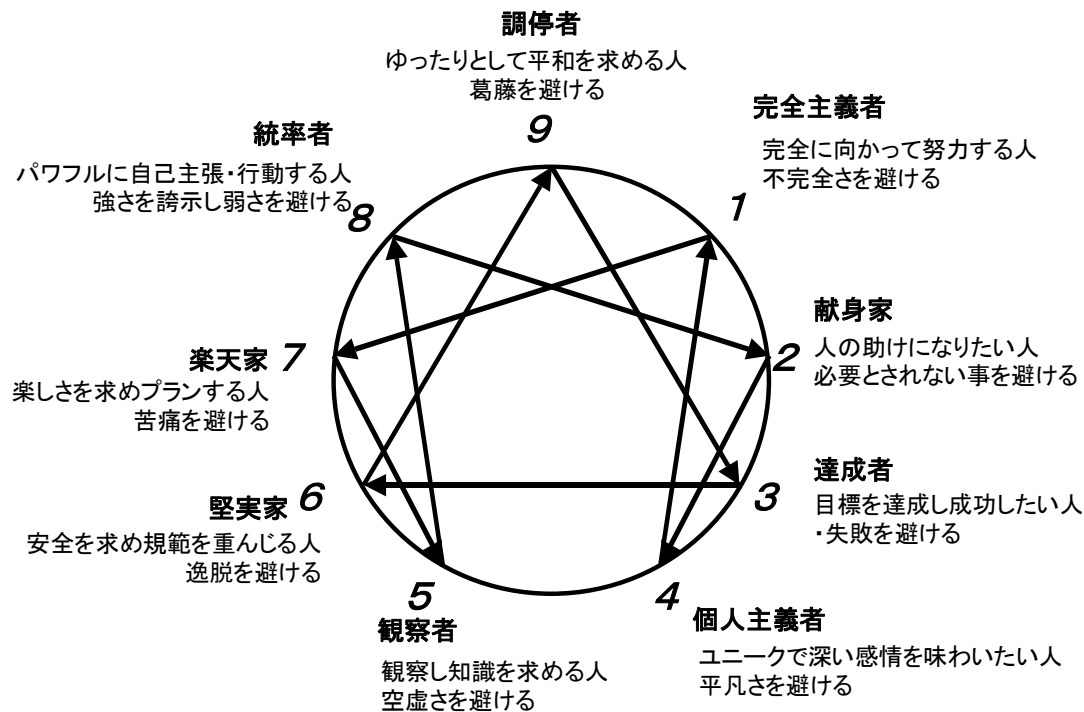
1. エニアグラムとは

エニアグラムとは

エニアグラムは、ギリシャ語の「エネア」、つまり数字の「9」を語源としています。人間の性格は9つのタイプのいずれかに属するというのがエニアグラムの基本的な考えです。(下図参照)

エニアグラムの起源については古代ギリシアから生まれたと言われていたりますが、1970年代初頭にボリビア出身のオスカー・イチャーズが伝統的な人間理解と教育の秘伝を研究し性格類型論として発表したのが始まりと言われています。この性格類型論が、米国スタンフォード大学の医学者や心理学者によって研究、整理され、体系化されたものがこのエニアグラムのベースになっています。

現在、日本ではソニー、東芝、富士通、キリンビールなどの企業でリーダーシップ研修、コーチング研修などに応用されています。

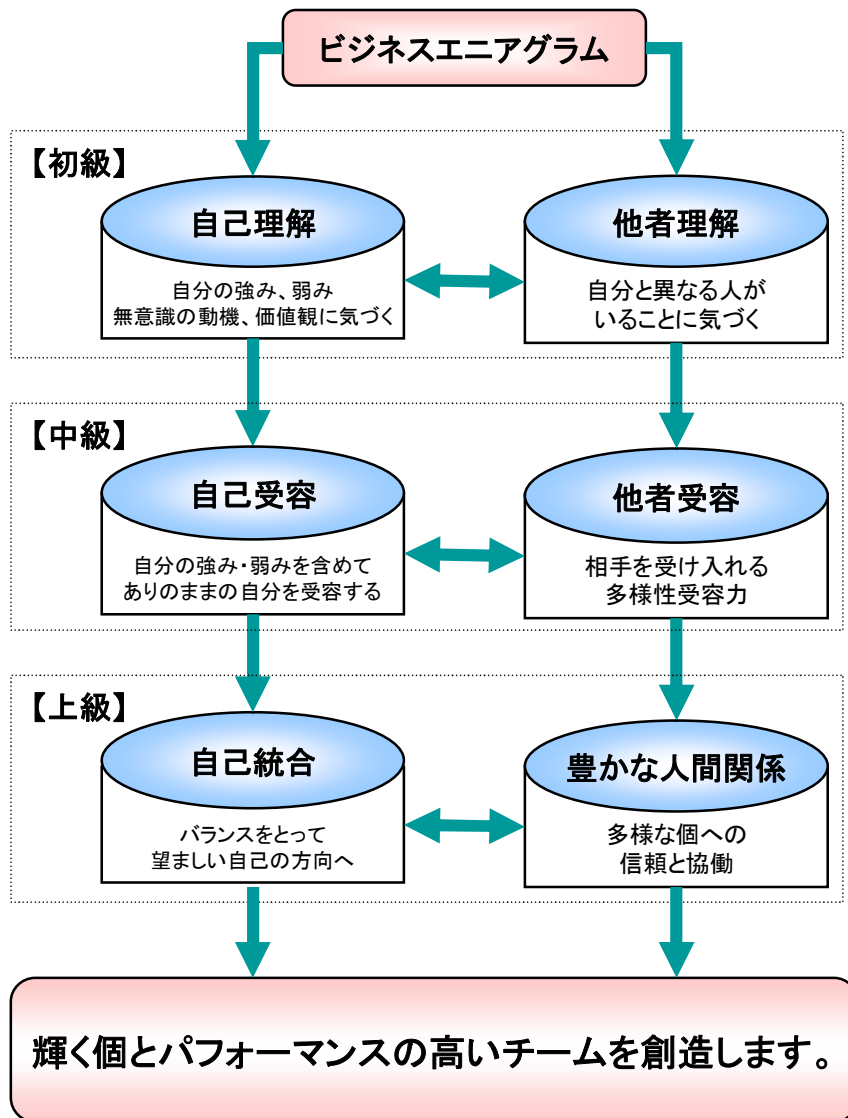


エニアグラムの効果

1. 自分や他者が何を求め、欲し、恐れ、どのように自分を表現しているのか理解できる。
2. 人間性の中に隠されている9つのパターンを知ることにより、人間1人ひとりの存在の価値を高めることができる。
3. 自己変革と自己成長のための筋道がわかる。
4. 自分を行動に駆り立て、固有の行動をとらせる、自分をつき動かしている動機を知ることができる。
5. 対人関係をスムーズにし、組織内、家族間などの人間関係の問題を飛躍的に改善することができる。
6. 自己受容、他者受容が進み、生きやすくなる。

2. ビジネスエニアグラムの効果

ビジネスエニアグラムの効果体系

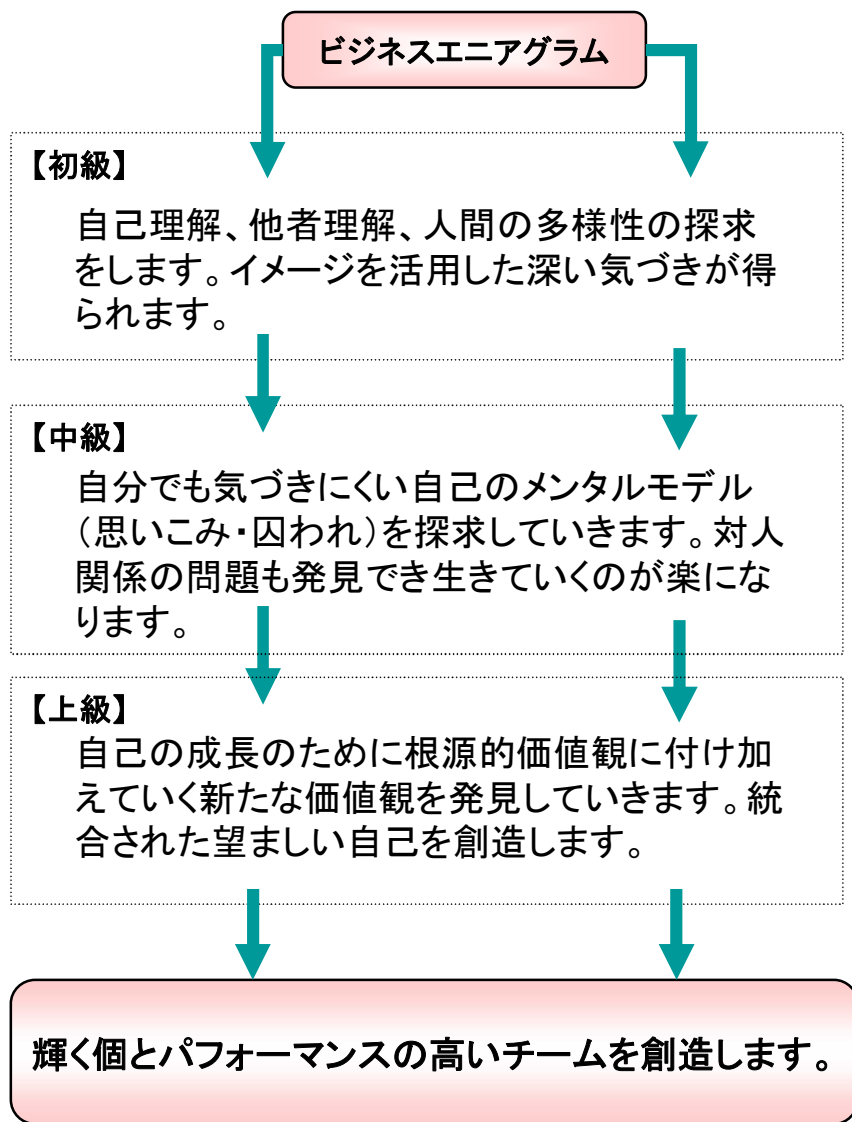


●ビジネスエニアグラムでわかること

- 1. 動機/キーワード**
タイプごとに動機付けになる要素がわかります。リーダーとして他者への働きかけ、やる気を引き出す際に有効なキーワードとなります。
- 2. ありがちな特徴**
自己の強み弱み等、行動特性を活かした活動が可能になります。また、他者の行動特性を知ることにより、特徴を活かした仕事の与え方ができるようになったり、多様な人との協働関係を築くことができます。(多様性受容力)
- 3. 対人関係の問題点**
自己の対人関係のありがちな問題点がわかり、気をつけて他者と接することが可能になります。また、他者の問題点を理解することにより対処方法を予め用意することができるようになります。
- 4. 関心**
自己の関心がどこにあるかがわかり、関心のないことに対しても対応する力がついてきます。また、他者の関心の所在を理解することにより関心のある話題を提供するなど、コミュニケーションの活性化に役立ちます。
- 5. 避けようとする事、やらないこと**
自己が避けようとする事、いやなことを客観的に理解することにより、感情的にならずに自己をコントロールできるようになります。また、他者のやる気が下がることはしないようにするか、いやがることを依頼するときの言葉かけが変化します。
- 6. よく使う言葉/かけて欲しい言葉**
その人が持っている価値に合った言葉を使うようです。かけてほしい言葉には、やる気を引き出す要素が含まれています。
- 7. 課題**
自己の課題とタイプごとの対人関係の課題を知ることができ、よりバランスの取れた対人関係の構築に貢献します。
- 8. 囚われ(とらわれ)**
自分自身が何に囚われているのかに気づく。
- 9. 統合**
自分自身がバランスをとり、望ましい自分になるための方向性に気づく。
- 10. 協働力**
互いの強みを活かしながら、文字通り「3人集まれば文殊の知恵」を実現し、創造的なチームのつくりかたがわかる。

3. ビジネスエニアグラムのねらい

ビジネスエニアグラムのステップ



●ビジネスエニアグラムでわかること

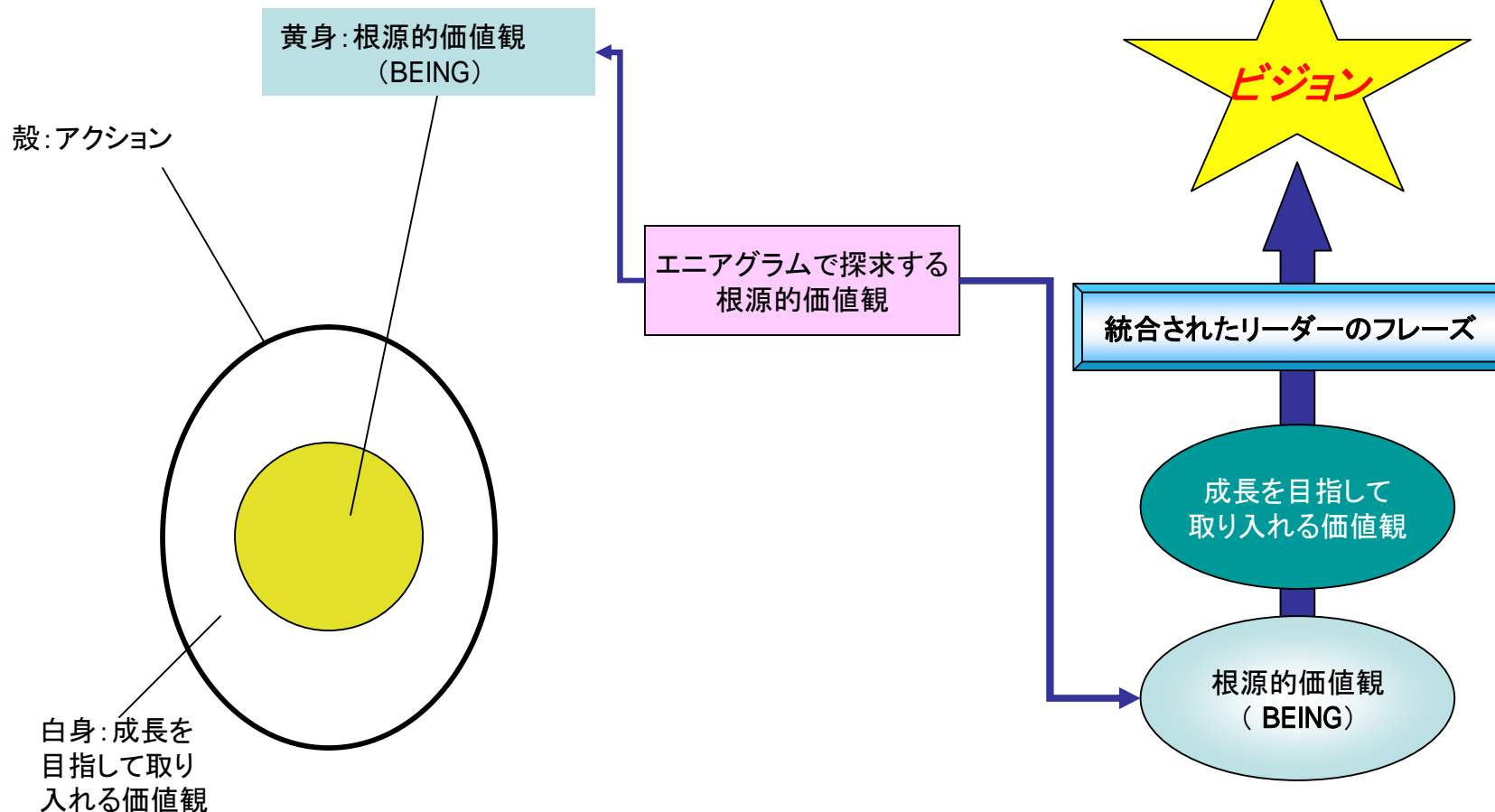
- 1. 動機/キーワード**
タイプごとに動機付けになる要素がわかります。リーダーとして他者への働きかけ、やる気を引き出す際に有効なキーワードとなります。
- 2. ありがちな特徴**
自己の強み弱み等、行動特性を活かした活動が可能になります。また、他者の行動特性を知ることにより、特徴を活かした仕事の与え方ができるようになったり、多様な人との協働関係を築くことができます。（多様性受容力）
- 3. 対人関係の問題点**
自己の対人関係のありがちな問題点がわかり、気をつけて他者と接することが可能になります。また、他者の問題点を理解することにより対処方法を予め用意することができるようになります。
- 4. 関心**
自己の関心がどこにあるかがわかり、関心のないことに対しても対応する力がついてきます。また、他者の関心の所在を理解することにより関心のある話題を提供するなど、コミュニケーションの活性化に役立ちます。
- 5. 避けようとする事、やらないこと**
自己が避けようとする事、いやなことを客観的に理解することにより、感情的にならずに自己をコントロールできるようになります。また、他者のやる気が下がることはしないようにするか、いやがることを依頼するときの言葉かけが変化します。
- 6. よく使う言葉/かけて欲しい言葉**
その人が持っている価値に合った言葉を使うようです。かけてほしい言葉には、やる気を引き出す要素が含まれています。
- 7. 課題**
自己の課題とタイプごとの対人関係の課題を知ることができ、よりバランスの取れた対人関係の構築に貢献します。
- 8. 囚われ(とらわれ)**
自分自身が何に囚われているのかに気づく。
- 9. 統合**
自分自身がバランスをとり、望ましい自分になるための方向性に気づく。
- 10. 協働力**
互いの強みを活かしながら、文字通り「3人集まれば文殊の知恵」を実現し、創造的なチームのつくりかたがわかる。

4. ビジネスエニアグラムの目指すところ

スタンフォード式エニアグラムによって、バランスのとれた人間的成長を目指していきます

1. 根源的価値観を探求し
2. 成長を目指して統合のための価値観を取り入れ
3. バランスのとれた人生ビジョンを創造します(内発的動機の実現)

「性格の構造」を卵に例えて表した図



5 ワークショップファシリテーター プロフィール

氏名 木村 孝(きむら・たかし)

経歴 1950年12月石川県生まれ、1973年学習院大学法学部卒業。
1973年ソニー商事(株)入社、ソニーインターナショナルハウスウェアーズ(株)、ソニートレーディング(株)転籍、新製品開発、新事業開発を担当、同時に人間の潜在的な能力の開発を研究。
1983年、人間の潜在能力開発をライフワークとして、1983年、ソニートレーディング(株)退社。
(株)脳力開発研究所(志賀一雅所長)入社、アルファ脳波を指標にした能力開発の実践と教育を担当。
1990年、マインドシンポジウムを開催。1991年、(株)脳力開発研究所退社。
(株)ヒューマックス代表取締役社長として、企業、自治体、教育、スポーツ団体、福祉施設などのさまざまなニーズに応じて講師、コンサルタント、カウンセラー活動を行っている。

得意な分野は、『多様な個のエンパワーメントとチームの活性化』をテーマとして、メンタリング、コーチング、リーダーシップ、エンパワーメント、チームビルディング、メンタルトレーニングエンパワーメントなど。
国際コミュニオン学会公認エニアグラム・ファシリテーター

著書 『心と脳を鍛えるメンタルトレーニング』日本能率協会マネジメントセンター
『心と脳を強くするメンタルトレーニング』PHP出版
『9つの動機』総合法令出版、『9つの鏡』オーエス出版
『問題解決のための9つの質問』オーエス出版

導入先 伊勢丹グループ「セールスマネージャーワークショップ」
クラリオン[メンタリング & コーチングワークショップ]
帝人[女性幹部メンタリングワークショップ]
富士通[エニアグラムワークショップ、管理職の人材活用術]
東芝[マネージャのためのエニアグラムをつかった自己認知プログラム]
麒麟ビール医薬探索研究所[キャリア開発ワークショップ]
住友生命[エンパワーメントワークショップ]
日立[リーダーシップ開発ワークショップ]
経済産業省[リーダーシップワークショップ]
カルティエ[ファシリテーション]
アドバンスド エナジー ジャパン[ビジョン創造コンサルティング]
外資系大手製薬会社二社のジョイントアクティビティ
ダイハツ陸上部、東芝男子バスケットボール部、中央大学水泳部[メンタルトレーニング]
サンフレッチ広島[コーチング]
東海JC青年の船講師・団長(25船、27船、28船、29船)等